

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑬

- 男性 / 29歳
- 職業/年次：SE(7年目)
- 居住エリア：品川区
- 居住形態：一人暮らし
- 奨学金：なし
- 2026年GWの計画：なし（自宅で趣味の整備）
- 2026年夏休みの計画：国内：東北一周（バイク）/予算：15万

<結果サマリー>

自分で整備したバイクで一人で走り、「自分がコントロールしている」実感を得るのが旅

1. 導入

根拠：品川区でSEとして働く29歳。仕事は「調整事ばかり」で、自身の意志だけでは動かさない仕様や納期に囲まれている。以前はSNSのバイク仲間と連れ立って走ることもあったが、2026年に入り、ガソリン代やパーツ代が高騰する中で、食事代などの「付き合いの出費」を避けるために一人の走行へ切り替えた。

推論：経済的な制約が強まったことで、これまでは曖昧だった「人付き合い」と「趣味の純度」を天秤にかけ、迷わず後者を取るようになった。限られた予算を1円も無駄にせず、自分の納得する用途にだけ使いたいという徹底した合理化の結果である。

FD：日々の生活で「自分以外の要素」に振り回されている実感があるため、私生活では情報の取捨選択から資金の配分まで、100%自分の納得感で完結することを優先している

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWは「高い、混む」という理由で自宅での整備に充てる。一方で夏休みには15万円をかけ、10日間の東北一周を計画。宿泊を無料・格安のキャンプ場に限定し、浮いた分をガソリン代や現地の食事に回す。2025年の「中途半端な外出で満足度が低かった」という経験から、一点集中の予算配分へ変えた。

推論：環境（物価高）を理由に旅行自体を諦めるのではなく、時期や宿泊形態を自ら組み替えることで、望む体験（長期の東北走行）を維持しようとしている。不便なキャンプを選ぶのも、消極的な節約というより、10日間という長期間を完遂するための、彼なりの計算に基づいた積極的な選択である。

FD：「世間並みの快適な旅」という標準を捨ててでも、「自分のバイクでどこまで遠くへ行けるか」という、自分の中にだけある基準の達成に重きを置いている。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：新幹線やデジタル旅行を「ただ運ばれるだけ」「五感がない」と切り捨てる。物価高や社会保険料増に不満を抱きつつも、バイクでの旅を「自分の人生を自分でコントロールしている実感」の拠り所とし、コンビニ飯にしてでも守ると語る。海外旅行も、自分のバイクで走れないなら高い金を払う価値を感じていない。

推論：彼にとっての旅行は、便利なサービスを楽しむことではなく、マシンの調子を感じ、ギアを選び、道を決めるという「自分の判断の連続」そのものである。社会的な閉塞感に対し、自力でハンドルを握る時間を死守することで、自分が自身の主導権を失っていないことを確認している。

FD：制約が増す社会において、受動的なレジャーを切り捨て、あえて「手間と責任」が伴う自力での体験にリソースを集中させることで、精神的な自立を保とうとしている。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：SE という他律的な仕事と、バイク旅という自律的な趣味のバランスで生活が成り立っている。2026年の物価高という外部の制約を、不要な支出（人付き合いや快適な宿）を削ぎ落とすきっかけとして捉え、一人のキャンプツーリングという「最小単位かつ純度の高い体験」へと自身の行動を最適化した。

推論：自分の意志で変えられない「社会情勢」や「仕事」という枠組みの中で、唯一「自分の判断が100%通る領域」としてのバイク旅に執着している。彼の行動原理は、贅沢をしたいのではなく、自分の限られたリソースを自分の意志だけで使い切り、その結果を自分で引き受けるという、手応えのある実感を求めている。

FD：2026年を生きるこの対象者にとって、旅行とは消費活動ではなく、外部の制約に屈せずに「自分の判断で動く」という事実を積み上げる、極めてパーソナルで実践的な試みである。

1. 導入

【インタビューアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、日頃の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【対象者】 あ、よろしくお願いいたします。

【インタビューアー】 まずは、今どのような毎日を過ごされているのか教えていただけますか。お住まいの場所や、お仕事、ご家族のことなど、差し支えない範囲で構いません。

【対象者】 今は品川区で一人暮らしをしています。仕事はシステムエンジニアをやっていて、今年で7年目になりますね。家族は……実家は地方なんですけど、こっちはずっと一人です。

【インタビューアー】 品川で一人暮らし、お仕事はSEをされて7年目なのですね。日々の生活の中で、ご自身が今一番関心を持っていることや、時間を使っていることは何でしょうか。

【対象者】 そうですね……やっぱり仕事を中心にはなりますけど、それ以外だとバイクですかね。週末とか、空いた時間はだいたいバイクをいじってるか、少し遠くまで走らせに行ったりしています。

【インタビューアー】 バイクが中心の生活なのですね。普段の休日などは、具体的にどのように過ごされていることが多いですか。

【対象者】 休日は、朝から駐輪場でパーツの交換をしたり、オイル差したり……。一通り整備が終わったら、そのまま城南島の方まで流しに行ったり、気が向いたら千葉の方まで行ったりしますね。基本、一人で黙々とやることが多いです。

【インタビューアー】 お一人で黙々と過ごされる時間が長いんですね。最近、何か特にハマっていることや、つつい調べてしまうようなことはありますか。

【対象者】 最近だと、やっぱりパーツ代とか、ガソリン代とか、そのあたりの価格推移はよく見えますね。2026年になってからも、じわじわ上がってるじゃないですか。どうやって維持費を抑えつつ、やりたい整備をやるか、みたいなことばかり考えて調べています。

【インタビューアー】 確認ですが、お一人暮らしのご自宅は社宅や会社の寮ではないのですよね？

【対象者】 あ、いえ、社宅とか寮ではなくて、自分で普通にマンションを借りています。

【インタビューアー】 あ、そうなんですね。品川だと家賃もそれなりにするかと思いますが、今の生活の中で、お金の使い道の優先順位などはどうなっていますか？

【対象者】 優先順位……。一番はやっぱり、さっき言ったバイクの維持費と、あとは最低限の生活費ですね。家賃は確かに高いですけど、職場へのアクセス重視で選んだので、そこは削れないかなと。それ以外は、極力無駄遣いしないようにして、残った分を趣味に回すっていう感じです。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビューアー】 これからの連休の過ごし方について伺わせてください。まず、間もなくやってくるゴールデンウィークですが、何か具体的な計画は立てられていますか？

【対象者】 GWは、特にどこかへ行く予定はないですね。基本的に家で過ごすつもりです。

【インタビューアー】 「特に予定はない」とのことですが、連休中、ご自宅でどのように過ごされるか、現時点でイメージされていることはありますか？

【対象者】 バイクの整備をじっくりやろうかなと思っています。フロントフォークのオーバーホールとか、時間がかかる作業をまとめてやりたくて。あとは溜まったゲームを消化したり、それくらいです。

【インタビュアー】 どこかへ出かけたり、ご実家に帰られたりといったことは、今回は検討されなかったのでしょうか。

【対象者】 そうですね……検討もしなかったです。GW ってどこに行っても混んでるし、宿代も跳ね上がるじゃないですか。わざわざ高い時期にストレスを溜めに行く必要もないかなって。

【インタビュアー】 「ストレスを溜めに行く必要もない」と感じられるのは、混雑や費用の面がやはり大きいのですか？

【対象者】 そうですね。特にガソリン代もパーツ代も上がってますし、今は家で自分のマシンのコンディションを整える方にリソースを振りたいんです。その方が、僕の中では納得感があるというか。

【インタビュアー】 なるほど。では、その先の夏休みについてはいかがでしょうか。何か計画されていることはありますか？

【対象者】 夏は、バイクで東北を一周しようと計画しています。

【インタビュアー】 東北一周ですね。具体的に、どのくらいの期間で、どのようなルートを回る予定か教えていただけますか？

【対象者】 だいたい1週間から10日くらいを考えています。品川から出発して、まずは太平洋側を北上して青森まで行って、帰りは日本海側を下ってくるようなルートですね。基本はキャンプ場を繋いで走るつもりです。

【インタビュアー】 夏休みの東北一周、1週間から10日かけてキャンプ場を回る計画とのことですが、行き先として「東北」を選んだのはなぜですか？

【対象者】 うーん、一番は「走りやすさ」ですね。関東近郊だとどうしても信号も多いし、車も詰まっている。東北は道が広くて、信号も少なく、バイク乗りにとっては聖地みたいな道が結構あるんですよ。あと、夏でも北の方なら少しは涼しいかなってという期待もあります。

【インタビュアー】 「走りやすさ」を重視されたのですね。移動手段はご自身のバイクとのことですが、宿泊先をキャンプ場にされたのは、どういった理由からでしょうか。

【対象者】 正直に言うと、コストカットが一番の理由です。2026年になってから、地方のビジネスホテルでも結構いい値段するじゃないですか。10日間も泊まったら、宿泊費だけで10万近く飛んじゃう。それなら、一泊数千円のキャンプ場か、最悪、無料のキャンプ場を繋いでいった方が、その分ガソリン代や現地の旨い飯に金を回せるなと思って。

【インタビュアー】 宿泊費を抑えて、他に回すというお考えですね。今回の旅行全体で、予算はどのくらいで見積もっていますか？

【対象者】 だいたい15万くらいですかね。ガソリン代、食費、フェリーを使うならその代金。あとは、途中で何かマシントラブルがあった時のための予備費を含めて。

【インタビュアー】 15万円。その費用は、普段の生活費と比較してどのように捻出されているのでしょうか。

【対象者】 毎月の給料から少しずつ「バイク貯金」として取り分けています。ボーナスをあてにすると、今の時代、いつ減らされるか分からない怖さもあるので。日々の食費を削ったり、コンビニに行

くのをやめたりして、なんとか絞り出してる感じです。

【インタビュアー】 日々の生活を削って捻出されているのですね。今回の計画を立てる際、「本当はこうしたいけれど、我慢した」といったことはありますか？

【対象者】 本当は、もっと良い宿に数泊くらいして、ゆっくり温泉に浸かりたい気持ちはあります。でも、今の物価高でそれをやっちゃうと、旅行期間を短くするか、行く場所を妥協しなきゃいけない。それなら、ボロいテントでもいいから「東北を走り切る」っていう目的を優先したかった。

【インタビュアー】 「走り切る」目的のために、宿泊の質を諦めたということですね。一方で、GWは自宅で過ごされるとのことですが、夏休みとのバランスを考えてのことでしょうか。

【対象者】 そうですね、バランスというよりは「夏に全振り」です。2025年の時は、GWに近場に一泊ツーリングに行ったんですけど、結局どこも高く、あんまり満足感がなかったんですよ。だから2026年は、中途半端に動くのをやめて、一点豪華主義というか、夏の一大イベントに予算も気力も集中させることに決めました。

【インタビュアー】 2025年の中途半端な経験から「一点集中」に変えられたのですね。2025年と比べて、意識的に変えたこと、あるいは変えざるを得なかったことは他にありますか？

【対象者】 あー、外食の回数は確実に減りましたね。去年の今頃は、週末に仲間と集まってツーリングに行って、豪華な海鮮丼を食う、みたいなこともよくやってましたけど、今は一人の時は基本、自炊かコンビニのパンで済ませてます。そうしないと、夏の15万が作れない。あと、円安のせいで海外メーカーのパーツがめちゃくちゃ値上がりしたんですよ。消耗品を買い換えるだけでも去年の1.5倍くらいかかる感覚なので、旅行に行くだけでも結構必死です。

【インタビュアー】 パーツの値上がりや外食の抑制など、かなりシビアに管理されているのですね。そこまでして「東北一周」を実現したいのは、今のあなたにとってどういう意味があるのでしょうか。

【対象者】 うーん……。仕事で画面ばかり見ると、自分が何のために働いてるのか分からなくなる時があるんです。でも、バイクで知らない土地を走っていると、「生きてるな」って感じがする。物価が上がって生活が苦しくなっても、その感覚だけは手放したくないというか、自分をリセットするための、意地みたいなものかもしれません。

【インタビュアー】 ちなみに、その東北旅行は一人で行くご予定ですか？

【対象者】 はい、一人です。基本、ツーリングはいつも一人ですね。

【インタビュアー】 いつもお一人なのですね。誰かを誘ったり、あるいは誰かに誘われたりといったことはないのでしょうか。

【対象者】 あー、昔はバイク仲間の集まりとかにも顔を出してましたけど、最近はめっきり減りましたね。誰かと行くと、どうしてもペースを合わせなきゃいけないじゃないですか。休憩のタイミングとか、飯をどこで食うとか。今は自分の好きな時に走って、疲れたら適当なキャンプ場で寝るっていう、その自由さが欲しいので。

【インタビュアー】 「その自由さが欲しい」というのは、具体的にどういう感覚なのでしょうか。

【対象者】 仕事でずっと調整事ばかりしてるからですかね……。仕様の調整とか、スケジュールの調整とか。プライベートの時間くらいは、1ミリも誰にも気を遣わずに、自分の判断だけで動きたいんです。それが僕にとっての「解放」というか。10日間、誰とも喋らなくても全然平気ですし、むしろその方がリフレッシュできる気がします。

【インタビュアー】 先ほど、2025年は「週末に仲間と集まってツーリングに行っていた」とおっしゃっていましたが、今伺った「ツーリングはいつも一人」というお話と、少し状況が違うように感じました。そのあたり、どう捉えればいいでしょうか。

【対象者】 あー……。そうですね。去年までは、SNSの集まりとか職場の知り合いと連れ立って行くこともあったんです。でも、2026年に入ってから、明確に一人で走る方に切り替えました。だから今は「いつも一人」というのが定着してる感じです。

【インタビュアー】 今年になってから「一人で走る方へ切り替えた」のは、何かきっかけがあったのですか。

【対象者】 さっき言った費用の問題が一番大きいですね。みんなで行くと、どうしても「せっかくだから」って、高めの店でメシを食ったり、予定になかった有料道路を使ったりする流れになるじゃないですか。今の物価高だと、その「付き合いの出費」がボディブローみたいに効いてくるんですよ。

【インタビュアー】 付き合いによる出費が、今の生活には負担になってきたということでしょうか。

【対象者】 負担ですね。正直、今の自分の給料と、跳ね上がったバイクの維持費を天秤にかけると、誰かに合わせて散財する余裕なんて1ミリもない。それなら、一人でコンビニ飯でも食いながら、浮いた金で少しでも遠くへ行きたい。仲間と走る楽しさよりも、一人の気楽さと「夏の軍資金を守ること」を天秤にかけたら、今は迷わず一人の自由を取りますね。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 今後のことについても伺いたいのですが、これから先、やってみたいと思っている旅行はありますか？

【対象者】 そうですね……。いつかはバイクで日本一周してみたい、っていうのはあります。今は長期の休みが取れても10日が限界ですけど、いつか1ヶ月くらいかけて、四国とか九州とか、まだ走ったことがない道を全部塗りつぶしたいなど。

【インタビュアー】 日本一周、壮大な計画ですね。一方で、最近は「青春18きっぷ」のような鉄道での格安旅行や、あるいはYouTubeで絶景を見たり、イマーシブ型の疑似体験をしたりする「デジタル旅行」というものもあります。これらについては、どう感じられますか？

【対象者】 18きっぷは、僕には無理ですね。移動そのものが目的にならないというか……「待たされる」のが苦手なんです。デジタル旅行も、正直ピンとこないです。画面の中でどれだけ綺麗な景色を見せられても、風も匂いもないじゃないですか。バイクに乗っていると、排ガスの臭いとか、急に冷える山の空気とか、そういう五感で感じるものがセットで「旅行」だと思ってるので。わざわざ金を払って疑似体験するくらいなら、近所を一周走る方がよっぽどマシです。

【インタビュアー】 五感での体験が不可欠なのですね。では、改めて伺いますが、あなたにとって「旅行」とは一体どんなものなのでしょうか。

【対象者】 「生存確認」ですかね。

【インタビュアー】 生存確認、ですか。詳しく教えていただけますか。

【対象者】 毎日、品川のワンルームと職場の往復で、誰が決めたか分からない仕様書通りに動いてると、自分がただの「部品」になったような気がしてくるんです。でも、バイクで知らない土地に行っ

て、自分の判断だけで道を選んで、不便なキャンプ場で寝て……。そういう「ままならない状況」に自分を置いた時に初めて、自分がちゃんと自分の人生をコントロールしてるって実感できる。だから、観光地を見たいというよりは、自分を取り戻しに行ってる感覚に近いです。

【インタビュアー】 「自分を取り戻す」ための大切な手段なのですね。しかし、2026年現在、物価上昇や社会保険料の負担増など、経済的な制約はさらに強まっています。そうした状況下で、あなたの「旅行」はどうなっていくと思いますか。

【対象者】 「要望」としては、もっと良い装備を揃えて、日本中を走り回りたいです。でも「現実」は、もっともっと削らなきゃいけないんでしょね。今よりもさらに自炊を徹底したり、キャンプ場すら使わずに野宿に近い形で走るようになるかもしれない。もしかしたら、バイクを維持すること自体が贅沢品になっていくのかもしれない、っていう恐怖はあります。

【インタビュアー】 その「現実」の予想に対して、ご自身ではどう捉えていらっしゃるんですか。

【対象者】 正直、クソだとは思いますが。普通に働いてるのに、なんで趣味一つ守るのにこんなに必死にならなきゃいけないんだって。でも、そこで諦めて「じゃあ家でYouTube見て我慢しよう」となったら、僕の生活は完全にただの「労働」になっちゃう。だから、たとえ回数が減っても、どんなにボロい装備になっても、自分で行きたい場所へ行くっていう行為だけは、意地でも守り続けたい。

【インタビュアー】 そうした厳しい制約の中でも、「これだけは譲れない」「これだけはやりたい」と思うことは何でしょうか。

【対象者】 「自分のバイクで、知らない道を走ること」ですね。これだけは、レンタカーじゃダメだし、新幹線でもダメなんです。自分の手でハンドルを握って、エンジンの振動を感じながら、自分の意志で進む。その体験さえあれば、宿がどこだろうが、メシがコンビニのおにぎりだろうが、僕の旅行は成立するんだと思います。

【インタビュアー】 今おっしゃったように、「旅行に行く」と「バイクに乗る」ことは、ご自身にとってセットなのでしょうか。公共交通機関を使って移動する旅行や、飛行機での海外旅行など、色々な旅のスタイルがある中で、「自分のバイクで知らない道を走る」ことが譲れないのはなぜなのでしょう。

【対象者】 セットですね。というか、僕の中では「バイクに乗って遠くへ行くこと」が旅行の定義そのものなんです。新幹線とか飛行機って、乗ったら勝手に目的地に着くじゃないですか。自分はただ運ばれてるだけで、その間の道中の空気とか、標高が変わる感じとか、何も分からない。それって僕にとっては、ただの「移動」であって「旅行」じゃないんです。

【インタビュアー】 「運ばれているだけ」なのは、旅行ではないという感覚なのですね。

【対象者】 そうです。自分のバイクなら、エンジンの調子を感じながら、自分の手足でギアを変えて、曲がって、止まる。その全行程に自分の責任が伴ってる。その「自分が操っている」という感覚が、さっき言った「自分の人生をコントロールしてる実感」に直結してるんだと思います。

【インタビュアー】 全行程に自分の責任が伴い、操っている感覚があることが、人生のコントロール実感に繋がっていると。

【対象者】 はい。社会に出て、特にSEなんてやってると、自分の意志で変えられないことばかりですからね。仕様も納期も予算も、全部外から決められる。でもバイクで旅をしてる間だけは、どこまで止まっても、どこまで走っても、全部自分の勝手。この「全権を自分が持っている」という手応えが、他

のどんな豪華な旅行よりも、僕にとっては価値があるんです。

【インタビュアー】 とすると、今後も海外旅行には興味を持たないと思われませんか？

【対象者】 そうですね、今のところは全く。さっきも言いましたけど、自分のバイクで走れないなら行く意味をあまり感じないんですよ。海外でレンタルバイクを借りて走るっていう選択肢もなくはないですけど、それならまず日本国内の走ったことがない道を全部走り潰す方が先かな、と。

【インタビュアー】 「日本国内を走り潰す方が先」というのは、やはりご自身のバイクであることへのこだわりからでしょうか。

【対象者】 それもありますし、あとは現実的なコストの問題ですよ。今の円安で海外に行って、高い金払ってまで走りたい道があるかと言われると……。それなら、浮いた金で国内のキャンプツーリングの回数を増やした方が、僕にとっては「自由」を味わえる回数が増える。コスパとかそういう次元じゃなくて、限られたリソースをどこに突っ込めば一番「生きてる」って実感できるかって考えたら、今は海外という選択肢は自然と消えますね。

【インタビュアー】 なるほど。

本日は貴重なお話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。以上でインタビューを終了いたします。お忙しいところ、本当にありがとうございました。